



道産へのニーズも高く、作付け拡大が求められている小豆(2019年10月、芽室町で)

畑作

20年の作付け道産、高い需要 小豆は上積みへ

畑作では、小豆や小麦、ジャガイモの引き合いが増している。作付面積の目標となる数値をまとめた2020年産の「畑作物作付指標面積」によると、道産需要の高まりもあり、小豆は15・2%、春まき小麦・大麦は7・5%の上積みが求められている。

各JAが農業振興計画で設定した計画面積を基に、道農協畑作・青果対策本部が需給の動向を踏まえてまとめている。

小豆は全道で2万2500畝、十勝で1万5582畝に設定。価格が安定する大豆の面積を増やす動きがある中、16年台風による不作もあって在庫が減少。22年には原料原産地表示が義務化されることも、道産小豆へのニーズが高まる背景となっている。全道ベースでは昨年度も計画より24%ほど高い2万2000畝の指標面積を設定。国の生産支援策も受け、さらに面積を増やす目標設定となった。

小豆は特にパンや中華麺用品種の需要が高く、春まき小麦は全道、十勝ともに7・5%増の上積みを設定。十勝では779畝の指標面積となっている。

ジャガイモはポテトチップスなどの加工用で、輸入から置き換える需要がある。全道で計画面積比0・8%増の1万5600畝、十勝では9928畝を指標とした。でんぷん原料用も、十勝では6・7%高い4877畝としている。

	全道	十勝
秋まき小麦	10万1218 (0)	4万0861 (0)
春まき小麦・大麦	1万9000 (+7.5%)	779 (+7.5%)
大豆	3万6369 (0)	8910 (0)
小豆	2万2500 (+15.2%)	1万5582 (+15.2%)
ジャガイモ		
（生食用）	1万4900 (+0.5%)	6217 (+0.5%)
（加工用）	1万5600 (+0.8%)	9928 (+0.8%)
（でんぷん原料用）	1万5500 (+2.3%)	4877 (+6.7%)
（種子用）	5100 (+0.8%)	2161 (+0.8%)
ビート	5万7841 (0)	2万5224 (0)

※2020年産の主な

畑作物作付指標面積

※単位は％（内は計画面積比の増減率）
表類は2021年の作付面積

農業用位置補正情報サービス

“VARC-NT”（バーク エスティー）

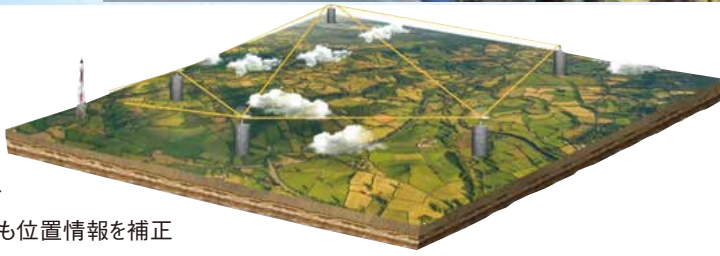
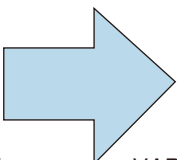
VARC-NTは、全国に設置された電子基準点のデータを使用し作成された補正情報を、インターネット経由でGNSSガイダンスに提供するサービスです。

インターネットが通じる場所なら、RTK基地局が無くても全国どこでも安定して補正情報を受信できます。

ニコン・トリムブル社のGNSSガイダンス“Trimble GFX-750”に対応しています。



従来型RTK
特定のエリア内で位置情報を補正



VARC-NT
全国どこでも位置情報を補正